

来週の金融市場見通し



しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第338号
Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会/一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
〒104-0031 東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL: [https:// www.skam.co.jp](https://www.skam.co.jp)

< 10/9 ~ 10/13 >

11月半ばまでの米連邦政府のつなぎ予算が成立し、米政府の一部機関の閉鎖は回避されました。ただ、2024会計年度の本予算は成立していません。米国の財政運営への不透明感は残り、米国債の信用が損なわれるリスクが意識されていることに加え、米金融引締めが長期化すると観測を背景に、金融市場がやや不安定な動きになっています。来週は6日発表の米雇用統計を受けた米金融市場の動向に加え、9月の米消費者物価指数(CPI)なども確認しながら、方向感を探ることになりそうです。

◆株価：底堅い展開か

【予想レンジ】日経平均株価

(来週) 30,800~31,600円 (10月) 29,500~34,500円



日本株は、底堅い展開が見込まれます。今週の日経平均株価は約1,000円下落しており、米長期金利上昇が一服すれば、値ごろ感から買いが優勢となりそうです。また、政府が減税等の経済対策を打ち出すと、株価を押し上げそうです。ただ、下院議長が初めて解任されるなど米国政治は混迷しており、来週に予定されている下院議長選で議長が決まらなると、投資家心理を悪化させそうです。また、中国の景気減速懸念も株価の重しとなりそうです。

◆為替：底堅い

【予想レンジ】ドル円レート

(来週) 147.5~150.5円 (10月) 141.0~153.0円

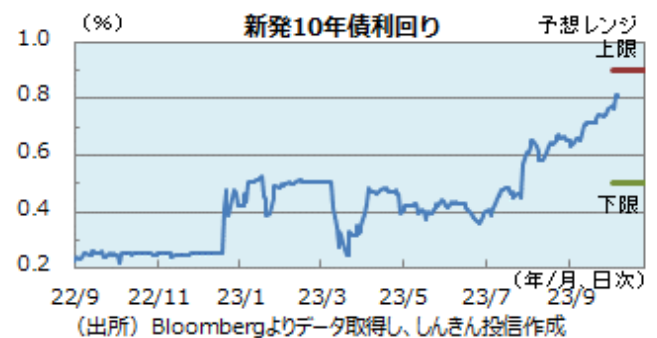


米国では、年内あと1回の利上げの可能性や、高水準の政策金利が長期化すると観測が強く、米長期金利は一時4.8%台まで上昇しました。それを受け、ドル円は底堅い地合いが続きそうです。とはいえ、足元、1ドル150円の水準は心理的な抵抗線になっていることに加え、日銀のドル売り介入への警戒感も根強く、当面、ドル円の上値は限定的とみられます。また、9月の米雇用統計の結果次第では、ドル売りが先行する場面もありそうです。

◆長期金利：居所を探る

【予想レンジ】長期金利(新発10年債利回り)

(来週) 0.75~0.85% (10月) 0.50~0.90%



米長期金利が約16年ぶりの水準まで上昇したことや、9月の日銀短観で国内企業の景況感の改善が示され、日銀が金融政策の修正に動きやすくなるとの見方から、長期金利は0.8%前後まで上昇しました。また、30年国債入札が低調な結果となり、30年国債利回りは一時1.8%台まで上昇しました。ただ、この水準では投資家の買いも強まりました。来週は米金利の動向に加え、5年国債入札などを確認しながら、居所を探ることになりそうです。

◆Jリート：戻りを探る

【予想レンジ】東証REIT指数

(来週) 1,810~1,860ポイント (10月) 1,800~2,000ポイント



米金融引締めが長期化すると観測が強まる中、高金利が米景気を悪化させるとの懸念から、投資家のリスク回避姿勢が強まり、Jリートも売りに押される動きになりました。長期金利上昇への警戒も重しになりました。もっとも、東証REIT指数は一時1,800ポイントを割り込みましたが、値ごろ感からの買いも入り、その後は下げ幅を縮小しました。割安感が意識される中、日米の金利の動きが落ち着いてくれば、戻りを探る動きも出てきそうです。

■来週の主な内外スケジュール

	国内	海外
10/9 月	◎東京市場休場（スポーツの日）	◎米休日（コロンバス・デー） 国際通貨基金（IMF）・世界銀行年次総会（15日まで、モロッコ）
10/10 火	景気ウォッチャー調査（9月） 国際収支（8月）	IMF世界経済見通し（WEO） 米3年国債入札 米卸売在庫（8月、改定値）
10/11 水	5年利付国債入札 工作機械受注（9月）	米下院議長選の予定 米10年国債入札 米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨（9/19・20開催分） 米生産者物価指数（9月）
10/12 木	野口日銀審議委員の挨拶（新潟県金融経済懇談会） 企業物価指数（9月） 貸出・預金動向（9月） 東京都心オフィス空室率（9月） 機械受注（8月）	米30年国債入札 米消費者物価指数（9月） 米月次財政収支（9月） 米新規失業保険申請件数（10/7終了週） 欧州中央銀行（ECB）議事要旨（9月会合分）
10/13 金	国庫短期証券入札（3か月） マネーストック（9月） 日銀「生活意識に関するアンケート調査」	米ミンガン大学消費者マインド指数（10月、速報値） 米輸入物価指数（9月） ユーロ圏鉱工業生産指数（8月） 中国生産者物価、消費者物価（9月） 中国貿易収支（9月）
10/14 土		ニュージーランド総選挙
10/15 日		エクアドル大統領選決選投票

（注）スケジュールの内容、日程が変更になる可能性があります。

（出所）各種報道を基に、しんきん投信作成

■来週の注目点

景気ウォッチャー調査（9月） 10月10日（火）午後2時発表

景気ウォッチャー調査の現状判断指数（DI）は、8月に前月差0.8ポイント低下の53.6と、7か月連続で50を上回りました。猛暑や物価高の影響で個人消費が伸び悩み、家計動向関連、企業動向関連ともに低下しました。

9月の現状判断指数は、低下が見込まれます。公共料金や食品の値上がりなどによる消費の伸び悩みが、家計動向関連を圧迫しそうです。また、原材料費等の上昇を十分に価格転嫁できないことや、中国経済の減速懸念が企業動向関連の景況感の重しとなりそうです。



米消費者物価指数（9月） 10月12日（木）午後9時30分発表

8月の米消費者物価指数（CPI）は、総合で前年比3.7%の上昇となり、前月から上昇したものの、変動の大きい食品、エネルギーを除くコアCPIは前年比4.3%の上昇となり、前月から伸びが鈍化しました。

米連邦準備理事会（FRB）が進めてきたこれまでの利上げなどの影響を受け、インフレは徐々に鈍化しつつあります。しかし、米労働市場や賃金動向の堅調な状況が続く中、原油価格も高水準で推移しており、インフレの低下は緩やかなものになりそうです。9月は総合で前年比3.6%程度、コアは同4.1%程度の伸びを想定しています。



<本資料に関してご留意していただきたい事項>

※本資料は、ご投資家の皆様へ投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。

※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。

※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。

※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

※投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。

※特定ファンドの取得のお申込みには、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

【お申込みに際しての留意事項】**■投資信託に係るリスクについて**

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■投資信託に係る費用について

（お客様に直接ご負担いただく費用）

- ◆ ご購入時の費用・・・購入時手数料 **上限 3.3%(税抜 3.0%)**
- ◆ ご換金時の費用・・・信託財産留保額 **上限 0.3%**

（保有期間中に間接的にご負担いただく費用）

- ◆ 運用管理費用（信託報酬）・・・純資産総額に対して、**上限年率 1.628%(税抜年率 1.48%)**
- ◆ その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用（手数料等）の合計額については、ご投資家の皆様へファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくお読みください。

※本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。